



ふたつを
うまくつなげる
仕組み

記事内容は執筆者個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

スクールソーシャルワーカーだより 62

親からの注目 アタッチメント

自分では気づかないうちに、とくに幼い日の記憶や体験がその後の人間関係に大きく影響を及ぼすようです。

支援を必要としている子の中には、普段から一人でいる方が楽だと感じていて、本当は相談したくても、「困っている事はありません」、と答え、面談を重ねても、なかなか距離が縮まらない事があります。

このようなタイプの子は、保護者が厳しく子育てした子どもに見られ、なかなか弱音を吐かないのです。

もしかすると保護者も同じように育ち、子どもへ上手に愛情表現出来なかった、子どもとのコミュニケーションが少なかったのかも知れません。

結果として、人との交わりを避ける性格に育つことがあるのです。

☆

学校生活の中で子どもは時々、つらい思いをする事があります。あまりにシヨンボリしているので聞きただされ、悩みを打ち明けると、それを聞いた親や先生が「それくらい大丈夫」「しっかりしなさい」と言葉や態度で励ましがちです。本当は欲しかったなぐさめ、サポートが得られず、ますます意気消沈して、ついには腹痛、頭痛などの体調不良を訴え、頑張る場所である学校に行かなくなる子もいるのです。

★

恐らくこの子の周りには、頑張ることが日常

になっている人が多いと考えられます。そのため、今の人間関係の中には居ない、自分を理解してくれそうな人を求めがちです。

あるいは憧れの対象を持ち、その人の影響を強く受けるのです。その人に夢中になる事で、自分自身の不完全さが消えたように錯覚するようで、見かけ上はとても安定しています。

☆☆

掃除機は効率よくゴミを吸い込む、色々な形の吸込み口を付けますが、あれをアタッチメントと呼びます。人間関係にも相手とうまくつながるアタッチメントがあり、相性によっては、どうやってもつながらないこともあります。

人間の事ですから、関係性もまた常に、一緒に変化しています。そして不完全なアタッチメントも完ぺきにつながるように変わって行きます。

たとえ親子のアタッチメントが不完全であっても、あらため調整する事で見事に調和しますし、他の人との関係も同様に、双方の努力によって改善されることは間違いありません。

冒頭の、人間関係を回避してストレスを軽減しようとするタイプの子も、支援するおとなが丁寧にアプローチを続けると、新しい関係性を作るスキルを身につけることが可能なのです。

そのために必要なのは、自分本位でなく、子ども本位のアプローチです。

